

2024年度 夏期集中講義のご案内

(文学部文化史学科設置科目、**春学期登録**、2単位)

文化史特論 (5)

——東アジアのなかの古代日本文化、史料編纂所の編纂事業、正倉院文書調査——

東京大学史料編纂所准教授 稲田奈津子先生

場所：今出川校地 (Ry105 の予定)

日時：8月20日(火)～23日(金) 2講時～5講時

文学部文化史学科では夏期休暇中に文化史特論(5)を**集中講義**として開設する。受講する場合は履修要項とシラバスを参照して、**春学期科目として登録**していただきたい。

2024年度出講をお願いした稲田奈津子先生は、東京大学文学部・大学院を卒業、東アジアのなかの古代日本文化の研究を推進するとともに、日本のアーカイブズの拠点「東京大学史料編纂所」に奉職し史料収集・編纂事業に従事、さらに東京大学文学部にも出講して東大の若手研究者育成にも尽力されてきた日本古代史学界を代表する研究者である。

日本史研究のみならず、「大唐元陵儀注新釈」編集、世紀の大発見の**天聖令研究**、**トルファン文書**や**大谷文書**を用いた**唐代田制文書群の復原研究**などを推進し、日本古代史研究の主流「日唐律令比較研究」を主導する。また、正倉院文書や舍利奉安記など多様な史料を縦横に活用、韓国の**買地券**などの**古文書**を用いた**契約文書の研究**など私法の世界にも視野を広げ、「日本古代対中国**礼制受容**的一个断面」など中国語論文も執筆している。今回の講義でも、**葬送儀礼**などを素材に、**日本独自の宗教的伝統とされてきたものを東アジア的視野のなかで相対化し位置付けていく**。

このたび**集中講義**という形式のおかげで**関西に出講していただくことができた**。こうした最先端の研究方法を学べる**貴重な千載一遇のチャンス**である。関西と関東とでは歴史認識や分析方法で異なる点も多く、東大系の学統を体現する稲田先生に接することで、みなさんの**研究方法や歴史観を見直す契機**ともなるだろう。

今年限りの貴重な機会、**古代史・文化史・考古学の学生**はいうまでもなく、**中世・近世・近代を専攻する学生**、さらには**東洋史、国文学、法制史**などの幅広い学生にも大きな刺激となるテーマである。積極的な登録をお勧めする。文学部他学科や他学部で関連諸学を研究している熱意ある学生にも、この機会を生かすべく登録・聴講を呼びかけたい。

〔稲田先生のご著書・ご論文〕

稲田奈津子『日本古代の喪葬儀礼と律令制』(吉川弘文館, 2015)

稲田奈津子・王海燕・榊佳子編著『黄泉の国との契約書－東アジアの買地券－』(勉誠出版, 2023)

など